

桜 歯 ニュース

2020. 7. 15
VOL.207



日本大学歯学部ホームページ： <http://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



難局に立ち向かう知恵と勇気を持って！

日本大学歯学部附属歯科病院
病院長 飯沼 利光

学生諸君、そしてご父母の皆様、新型コロナウイルス感染症は皆さんの生活に多大な影響を及ぼし、多くの方々が、これまで経験したことのない深刻な問題と直面し、日々苦慮されていることと思います。もちろん、私たちの日本大学歯学部ならびに附属歯科病院も例外ではなく、多くの難問を抱えています。学生のみならず、患者さんのことを思いながら、教員や病院スタッフは日々これに立ち向かっています。多くの方々が、一日も早く元の生活に戻りたいと願っているところですが、ワクチンや有効な治療薬がない現状では、その道は険しく、難しいものになるでしょう。今こそ「がんばれニッポン！ 頑張れ人類！」と声高々に叫びたい心境は私だけではないと思います。とくに学生の皆さんには、感染予防の観点から、遠隔授業での学習をお願いしており、皆さんの息遣いを感じながらの指導ができないため、「歯科医師になる」との大きな目標に向けての“心”が折れてはいないかと心配をしています。これまで人類は、数知れない困難に立ち向かい、様々な問題に対し英知を結集しながらこれを克服してきました。学生諸君も歴史の授業でこれらのことを学んできたはず。そして今、まさに君たちは新たな歴史の創造者としてこの難局に立ち向かっています。将来、医療に携わる者として、後世の人たちに誇れるよう、一人一人が今すべきことを心に強く刻み、ともに頑張っていきましょう！

(教授 歯科補綴学第Ⅰ講座)

教員 紹介

Aim high

篠田 雅路



令和2年4月1日付で日本大学歯学部生理学講座教授に就任いたしました。創設100周年を超える歯学の伝統校である日本大学歯学部にて奉職する機会を頂き、大変光栄なことと存じます。

私は今でこそ基礎研究を生業としておりますが、学生時代にはあまり基礎研究に興味がなく、歯学部卒業後は臨床医を志し名古屋大学医学部口腔外科に入局しました。

入局後は、けっして「研究がしてみたい」という志があったわけではなく、「博士号が欲しい」という邪な考えで大学院に進学し、口腔外科の大学院生として基礎系講座に配属されました。当初、私は研究に対し、辛くて孤独という負のイメージを勝手に持っていたのですが、そこではいろいろな学部出身者が分け隔てなく切磋琢磨して楽しく研究しており、私は何時しかどっぷり研究に浸かっていました。当時の指導教授に「研究は地味で感謝されることは少ないけど、いい論文を出せば世界中の誰かは見ていて、必ず評価されるからね」と言われました。初めは半信半疑でしたが、私の学位論文がパブリッシュされると何通も海外から高評価コメントとともに別刷請求が来て有頂天になり（今では論文はWebで見ることができるので、この感動を味わうことは出来ませんが）、この経験が私を基礎研究の道に導きました。

顎顔面領域では、三叉神経痛、顎関節症や舌痛症など「痛み」を伴う難治性疾患がありますが、発症メカニズムに基づいた原因療法はなく、対症療法に頼っているのが現状です。これはあくまでも私見ですが、歯学部の基礎研究者の使命は、このような顎顔面領域の難治性疾患に対する新規原因療法開発の土台となる研究をすることだと考えています。私は大学院生時代から一貫して「痛み」の研究を続けてきましたが、特に生理学講座では「顎顔面領域の難治性疼痛」をターゲットとして発症機構の解明を目指した研究を行っていきます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。(教授 生理学講座)

【略歴】
平成10年東北大学歯学部卒業。平成15年名古屋大学大学院医学系研究科修了。名古屋大学大学院助手、ピッツバーグ大学PD、日本大学助教、准教授を経て、令和2年4月本学教授。博士(医学)。47歳。

教員 紹介

プロフェッショナリズム に基づく歯科医学を！

武市 収



日本大学が掲げる「自主創造」は、多様化した現代を生き残るためには欠かせない重要な理念です。広く社会情勢を見据えたグローバルな考え方を基に、与えられるだけではなく、自ら問題提起し自ら解決する力を身につけた、リテラシーの高い人材の育成を行ってまいります。

私が根尖性歯周炎の免疫学的研究に従事するようになって、はや30年が経とうとしております。大学院時代の研究テーマは、根尖性歯周炎に關与する炎症メディエーターをPCR法で検出することでした。現在COVID-19が世界を席卷し、連日コロナ陽性率が報道されていることから、今ではお馴染みとなったこのPCR法。私が大学院生の時は、PCR法の研究を行っています、と言うとほぼ百パーセント「プラークコントロールレコードですか?」と聞かれたものです。それくらい特殊な遺伝子検索法でしたが、この研究が元で大学院終了直後に渡米し、ポスドクとして4年間米国での研究生活を送ることができました。

この10年はコロナウイルスならぬヒトヘルペスウイルスの研究を行っており、根尖性歯周炎の難治化に關与する可能性を見い出しました。根尖性歯周炎は細菌感染症である、との強い認識がありましたが、ヘルペスウイルスの研究は新たな治療法のターゲットとなり、根尖性歯周炎の病因論という名の地図を塗り替える一助となりました。まさに、佐藤運雄先生が唱えた「医学的歯学」の実践に寄与したものと思います。

研究では顕微鏡を用いて組織切片を観察していましたが、臨床では観察対象を変え、毎日顕微鏡を用いて根管の探索・治療を行っております。この25年で歯内療法は大きく進化し、手探りで行っていた治療が予知性の高いものになりました。この進化した歯内療法を、広く皆様方にお伝えしていきたいと思っております。

歯科保存学第II講座主任教授として、今後も教育・臨床・研究の更なる充実を図り、日本大学歯学部の発展のために尽力して参る所存です。

(教授 歯科保存学第II講座)

【略歴】
昭和62年日本大学歯学部卒業。平成3年日本大学大学院歯学研究科修了。Postdoctoral Fellowship (Forsyth Institute, ボストン、米国)、日本大学助手、専任講師、准教授を経て、令和2年4月本学教授。歯学博士。58歳。

教員
紹介伝統を活かした
新たな臨床・教育・
研究の実践

林 誠



歯学部の前身である東洋歯科医学校は、大正5年に佐藤運雄先生によって「医学的歯学」の教育理念に基づいて創設されました。すなわち、歯学を口腔だけにとどめず、常に全身と関連づけて学ぶという考え方です。これは、現在の歯科医学では当

たり前のように言われていますが、技術偏重であった当時としては革新的な考えであったと思われます。さらに佐藤先生は、人格の教化や学生相互による知識の授受・切磋琢磨も建学の趣旨として示しています。このことも、歯科医師が医療人として豊かな人間性と医療の進歩に伴った生涯学習の必要性が謳われる現代にも通じると思います。このような素晴らしい建学の精神を日本大学歯学部では100年以上受け継ぎながら、現在に至っています。

一方、近年ではグローバル化や情報化、さらに少子高齢社会の到来など社会環境が大きく変化してきました。そのため歯学部でも、社会の変化に対応できる歯科医師の育成が重要と考えられます。そのためには、これまでの一方通行の知識伝授型学習法から、自分自身で問題を発見し、他者と協力して問題解決ができる力を養う問題解決型学習法を取り入れることが必要です。私が所属する歯科保存学第Ⅱ講座は臨床系講座の一つですので、大学教員にとって臨床・教育・研究は重要な三本柱です。問題解決型学習法によって身についた問題解決能力は、この三本柱の実践に非常に有効であると考えています。

今年度のスタートから大学では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、遠隔授業の導入、診療体制の縮小、在宅勤務の実施など、様々な対応が求められてきました。このような時こそ、日本大学歯学部の建学の精神を再確認し、その伝統を受け継ぎながら臨床・教育・研究を実践することが重要と思います。どうか皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。(教授 歯学保存学第Ⅱ講座)

【略歴】

平成2年日本大学歯学部卒業。平成7年日本大学大学院歯学研究科修了。日本大学助手、日本大学長期海外派遣研究員(トロント大学歯学部、カナダ)、助教、准教授を経て、令和2年4月本学教授。博士(歯学)。54歳。

「読書で
世界を広げる」

宮崎 真至

私は、読む本のジャンルは問わず、いわゆる乱読の部類に属し、気に入ったタイトルや知人の勧めで、手あたり次第に読んでいます。いわゆる“今はやり”の小説に関しては、気になるので手に取ります。もちろん、話題の小説についても、すべて目を通すことは不可能ですが、タイトルなどを見て、心惹かれるものは手にすることが多いです。例えば「ワイルド・スワン」ですが、そのタイトルからイメージしていたものとは真逆で、その国で何があったのかの真実を伝えてくれるものでした。驚きとともに、それが現実であったのかどうかを疑いながらも読み進めたものです。帚木蓬生の作品もよく読んでいますが、とくに「国銅」は数度読み返した作品です。この作者の知識、想像力そしてメッセージの強さには心惹かれるものがあります。

そのような中で、初めての読書経験となったのが、「三体」という本を「The Three-Body Problem」とともに2度読みしたことです。読書から得ることは多いと思いますが、日本語とともに英語バージョンを読むことはこれまでにない体験でありました。そして、読書の楽しみを深く感じたことも確かです。この本は、理解にはかなり時間を要する類のものですが、そのエンターテインメント性は至極のものと思います。「ワイルド・スワン」で描かれている文化大革命の真実を端緒として、物語が宇宙にまで及ぶという想像力と創作力に率いられ、日本語訳に引き続き英文訳までも読んでしまったわけです。これはまさに、著者とともに翻訳者の術中にはまったようなものでしたが、極めて心地よかったです。

読書が与えてくれるものには、数知れないものがあると思います。それぞれの読書の方法はあるとは思いますが、それが人生の楽しみであり、何かの方向付けになるのだと思います。



(教授 歯科保存学第Ⅰ講座)

新型コロナウイルス 感染予防について

～感染第2波に備える～

川戸 貴行

感染症はウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し、体の機能を障害する病気で、感染源、感染経路、宿主の感受性の3つの要因に対して予防策が講じられます。性質が完全に明らかにされていない新型コロナウイルス感染症では、1つの要因を完全に断ち切ることは難しく、各要因をできるだけ小さくすることが大切になります。

新型コロナウイルス感染症では風邪に似た症状が認められますが、その程度は個人差が大きく、感染に気付かないことも多いとされています。日頃からマスクを装着するなどの咳エチケットは、鼻や口から病原体を含む飛沫が周囲に飛散する量を減らし、飛沫が直接、鼻や口に飛び込むのを防ぎます。新型コロナウイルスは体外に出た後もしばらく感染力を保つことから、小まめな換気、手洗い、ドアノブなど人が触れる機会の多い箇所の消毒は、感染経路対策として大切な取り組みです。人との間隔を保つ、手を洗うことなく顔を触らない、目をこすらないなども注意したい行動です。

宿主の感受性には体力や、病原体の侵入と増殖を退ける免疫力などが挙げられます。新型コロナウイルス感染症では、感染前に接種することでその病原体に対する免疫力を高めるワクチンが確立されておらず、感染後に獲得される免疫力の程度も明らかにされていません。また、体内のウイルスを減じる治療法も確立されていません。体力は感染後の経過にも影響すると考えられるため、日頃から栄養、休養、運動に留意して体調を整えることが大切です。さらに、感染後の病院での治療や自宅療養は、症状を改善し健康を回復する上ではもちろん、感染源・感染経路対策の点でも重要になります。

新型コロナウイルスの感染は誰にでも起こりえます。不要不急の外出の自粛を含め、基本的な感染予防策の継続を心掛けましょう。また、本感染症に関する情報は、日々、更新されています。何時、誰が、どの様な目的で情報を発信しているかを常に確認するように心掛けましょう。

(教授 衛生学講座)

遠隔授業について

学務委員会

新型コロナウイルスの感染拡大により、対面授業の実施が困難になることが予想されたため、学務委員会では3月中旬に遠隔授業小委員会（松本邦史 委員長）を立ち上げ、遠隔授業の検討・準備を行ってきました。4月7日に政府からの緊急事態宣言発出、および東京都の緊急事態措置を受け、第5、6学年は4月15日から、第1～4学年は5月11日から遠隔授業を実施しています。全学部で本格的に遠隔授業を開始した5月11日に、日本大学全体でシステム障害が起きたものの、その後は大きなトラブルもなく進んでいます。

本学部では、主に Google Meet を用いて、時間割に沿ったオンタイムで授業を配信しています。また、学生の通信状況が悪い場合を考慮し、授業を録画しています。この録画は、通信状況が悪かった場合だけでなく、復習にも活用することが可能です。また、主に一方向の授業となっているため、教員へ質問できるサイトや学生の意見交換ができるサイトなどを用意しています。これまでの対面授業の時以上にたくさんの質問が寄せられ、多くの学生が学修に役立っています。遠隔授業に限りませんが、学ぶ姿勢がとても重要になります。特に遠隔授業の期間中は、この学ぶ姿勢によって学力に大きな差が生じることが予想されます。まだ利用したことのない学生は、これらのツールを積極的に活用し、学修の助けとしてください。

また本学部の図書館が提供する電子ブックは、学外からアクセスが可能です。用途に応じて3種類の電子ブックサイトがあり、医歯薬学術系の「KinoDen」では、購入リクエストも受け付けていますので是非活用してください。

なお、緊急事態宣言は解除されましたが、学生の安全確保が図れるまでは、遠隔で授業を行う体制を継続する予定です。



第113回歯科医師国家試験発表を終えて —日本大学歯学部への使命—

学務担当・学習指導委員会委員長 今村 佳樹

第113回歯科医師国家試験の合格発表が3月16日にありました。新型コロナウイルス感染症の蔓延が深刻化する中であって、第113回歯科医師国家試験が無事に実施され、新たな歯科医師の誕生を見たことは、本当に幸いでした。歯科医師国家試験の日程が、もう1か月遅ければ、試験の実施自体、かなり不確かなものとなっていたことが容易に推察されます。

さて、第113回の歯科医師国家試験の結果を俯瞰しますと、本年度は、全国で3211名の受験者のうち、2107名が合格し、合格率は65.6%でした。この値は、第107回歯科医師国家試験で合格率が60%台に下落して以降では、最も高いものでした。新卒の合格率も過去6年で最も高かった昨年の79.4%に匹敵する79.3%でした。最近の国家試験では、広き門であったといえます。この中で、私立大学全体の合格率は、新卒既卒合わせて61.6%、新卒だけで76.7%であり、日本大学歯学部は、既卒を合わせると65.7%、新卒だけで71.7%でした。この数値からみると、本学部の新卒の合格率が全国平均よりも5%低値であったことがわかります。この数値には、素直に反省すべきで、新卒に関しては、事実、30%近い受験生が辛酸を舐めた結果となっており、これらの学生を合格に導くのはもちろん、私たち教員の使命です。この解決の

ためには、6年生の教育の改革だけでは改善が難しいと考えており、日本大学歯学部では、低学年からのカリキュラムの見直しを含めて、中長期的な学生教育の充実を図っているところです。

ところで、上記のデータには、喜ばしい点も含まれています。日本大学歯学部では、第112回歯科医師国家試験の反省から、一人でも多くの合格者を輩出することを目標に掲げ、この一年、教育を行ってきました。この中で特筆すべき点は、私立大学第2位の歯科医師国家試験合格者を得た点と、私立大学の中で最も未受験者が少なかったことです。129名の出願者のうち、受験しなかった学生は、わずか2名であり、その結果、出願者中の合格者の割合は、70.5%で、この値は私立大学にあっては全国第3位で、国立大学にも及ぶ値でした。すなわち、6年生で歯科医師国家試験を目指した人の合格率は比較的高い水準にあったことです。日本大学歯学部では、伝統的に6年生には制限を加えず歯科医師国家試験を受験させる方針を貫いてきました。今後もこの方針を維持することはもちろんですが、出願者全員を国家試験に合格させ、社会に貢献できる特色ある歯科医師を輩出することを使命と考え、学生教育に当たっていきます。
(教授 口腔診断学講座)

第113回歯科医師国家試験結果

	新卒					未受験率	出願者の合格率
	出願者数	受験者数	未受験者数	合計者数	合格率		
	76	58	18	48	82.8%	23.7%	63.2%
	56	35	21	34	97.1%	37.5%	60.7%
	59	38	21	21	55.3%	35.6%	35.6%
	130	82	48	66	80.5%	36.9%	50.8%
	134	82	52	66	80.5%	38.8%	49.3%
	95	92	3	76	82.6%	3.2%	80.0%
	161	135	26	130	96.3%	16.1%	80.7%
日本大学	129	127	2	91	71.7%	1.6%	70.5%
	155	101	54	76	75.2%	34.8%	49.0%
	118	79	39	55	69.6%	33.1%	46.6%
	129	91	38	59	64.8%	29.5%	45.7%
	62	56	6	41	73.2%	9.7%	66.1%
	91	47	44	42	89.4%	48.4%	46.2%
	144	73	71	70	95.9%	49.3%	48.6%
	135	122	13	77	63.1%	9.6%	57.0%
	138	68	70	58	85.3%	50.7%	42.0%
	103	88	15	44	50.0%	14.6%	42.7%

研修歯科医の採用について



卒後教育担当 外木 守雄
(教授 口腔外科学第Ⅰ講座)

総合診療科長 紙本 篤
(准教授 総合歯科学分野)

平成18年度に必修化された歯科医師臨床研修制度が導入され、今年で14年目を迎えます。これ

までに当病院の研修を修了した研修歯科医は1000名を超え、研修修了後も様々な分野で活躍しており、伝統のある当プログラムの評価が反映されているものと思われます。

新病院への移転を機に、今年度より6コースから構成される新プログラムとなりました。近年、厚生労働省では、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的として、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。そのため、当病院の臨床研修プログラムは、将来、研修歯科医が歯科医師としての社会貢献を自ら考え、実践していけるような人物となるよう育成していくことを目的とし、地域における歯科診療の実際を多く経験できるよう改正しました。

管理型（新病院）での各診療科における専門診療部研修期間は、SCOPコースが4-6月、Rコースが7-3月となっており、研修修了時に必要とされる症例数が年々増加していることへの対応として、各診療科へ少数配属することにより、積極的に診療に参加できるシステムとなっております。また、CDコースは1年間の単独型研修で、配当される患者数を増やすための少数精鋭としています。島しょ歯科診療や保健所研修などの研修協力施設における研修を必須としているため、2次医療機関の役割を中心に学ぶシステムとなっております。

昨今の歯学教育では、臨床経験を重視した診療参加型教育の充実が求められています。我々指導歯科医は、医療人として自覚をもち、質の高い治療を提供できる研修歯科医を育成する必要があります。このため研修歯科医の採用は、学生生活態度や実習に対する姿勢を踏まえ、医療人として当院にふさわしい人材を採用していきたいと考えております。

臨床研修を終えて

遠山 由理香

総合診療科での1年間の臨床研修を修了しました。手技の巧拙よりも、患者個々の問題点に応じた治療計画を立案し、治療のステップ毎にその意義を理解し、一口腔単位で常に先を予測する事に重きを置き、試行錯誤した1年でした。時には辛く感じた日々もありましたが、指導医の先生方の熱意と共に、自分の未熟な部分と向き合い、目標を設定することで乗り越える事ができたと思います。



最後になりますが、総合診療科の指導医の先生方、診療させていただいた患者さんに感謝致します。

(歯科保存学第Ⅱ講座)

歯科医師臨床研修を終えて

畑 賢佑

気づけば修了していた。それくらい充実した臨床研修を日本大学で経験させて頂きました。このような研修期間を過ごす事ができたのも、たくさんの先生やスタッフの方々の支えがあったからだとは実感しています。

同期の研修医の先生たちは、他大学出身で不安な気持ちを隠せずにいた私を温かく迎え入れてくれました。

8カ月間お世話になった、協力型施設の先生方は、かなり高度な治療をされていましたが、どんなに良い治療計画でも、プラークコントロールができて初めて成立すると熱心に指導してくださいました。

総合診療科の先生方は歯科医師としてだけでなく、1人の社会人としての在り方を真剣に教えて下



さいました。皆様へ感謝の気持ちを忘れることなく、これから歯科医師として邁進して参りたいと思います。

(歯科矯正学講座)

日本大学歯学部に入學して

工藤 遥

希望していた大学への入学に心を弾ませていた矢先のことでした。入学式やオリエンテーション中止と遠隔授業開始の連絡が入り、私は大学へはいつ通えるのか、遠隔授業を受けるための準備が難しいのではないかと急に不安な気持ちになりました。幸いなことに、私には同じ高校から進学した同級生が2人いたため、分からないことを相談しあえたので、不安を和らげることができました。

授業が開始してからは、分からないことを各教科の先生方が丁寧に教えてくださるので安心しました。グループ学習では、班員と力を合わせて毎週レポートを作成しています。レポートを作成するにあたって、班ごとのビデオ通話やグループラインを通して資料を集めたり、トラブルが起きたときにみんなと相談したりすることでより良いレポートを作ることができていると思います。(第1学年)

松山 貴紀

コロナウイルスの影響でオンライン授業という形でのスタートとなりました。私を含め新しい大学生活に期待を膨らませていた一年生の仲間達、新入生歓迎の準備をしてくれていた先輩方、熱心に指導をして下さる教職員の皆さんにまだ会う事が出来なく残念です。

しかし、今はSNSを使って簡単に繋がる事が出来ます。私も実際には会った事のない友達と一緒に課題をこなしたり、連絡を取り合ったりする事が多くなりました。相手の表情が読み取れない環境での会話、友達作りには少し勇気がいるかもしれません。表情の見えない相手の気持ちをしっかり考え、感じる必要があるからです。難しい事です。しかし、歯科医師になる為に勉強している私達にとって相手の気持ちを考え、感じる力は絶対に必要で身に付けるべきです。みんなでこの危機を乗り越えて、1日も早く楽しい大学生活を送りましょう。

(第1学年)



既卒生に対する学習支援活動報告

卒後教育担当 外木 守雄

同窓会の支援を受け発足した合格支援小委員会は今年で活動開始3年目になります。活動は、学内外の講師による講義等の学習面での支援のほか、臨床研修歯科医マッチングの申し込み等の事務手続きの補助、さらには勉強一色の毎日に彩を添える夏季の激励会、また春には合格者に対する合格祝賀会の開催と多岐にわたります。


新型コロナウイルス感染症の拡大により大きな影響を受けている状況下で国家試験合格に向けて頑張る既卒生に、今年も母校としてできる限りの支援を行ってまいります。

(教授 口腔外科学第I講座)



NewsPlus α

☆夏期期間中 (7/11 ~ 9/30) の事務取扱等

学部事務取扱時間	
9:00 ~ 17:00	※日・祝休業
7/11 ~ 8/30まで土曜休業	
図書館開館時間	
図書館HPをご覧ください。	
	
http://www2.dent.nihon-u.ac.jp/library/	
付属歯科病院	
9:00 ~ 17:00 (月~金)	
9:00 ~ 13:00 (土)	

学 事

科学研究費助成事業交付決定者

☆基盤研究 (B)

小林 真之 山本安希子

☆挑戦の研究 (萌芽)

山本安希子

☆基盤研究 (C)

佐藤 秀一	池田 貴之	二宮 禎	近藤 真啓
田邊奈津子	小柳 裕子	澁田 郁子	今村 佳樹
白川 哲夫	田村 宗明	神尾 宜昌	藤原 恭子
篠田 雅路	藤田 智史	今井 健一	大橋 晶子
Cueno Marni	高山 忠裕	高見澤俊樹	黒川 弘康
清水 康平	小峰 太	飯沼 利光	外木 守雄
大井 良之	篠崎 貴弘	好土 亮介	山口 洋子
坪井 美行	大橋 一徳	人見 涼露	林 良憲
津田 啓方	武市 収	高橋 富久	浅野 正岳
中山 浏利	篠塚 啓二	野間 昇	岡田 明子
武井 浩樹	堤 博文	川戸 貴行	中野 善夫

☆若手研究 (B)

高市 祐佳

☆若手研究

大原 絹代	長嶋 秀和	蓮池 聡	平場 晴斗
西尾 健介	古川 明彦	白土 博司	中井久美子
玉川 崇皓	渡辺 孝康	間中総一郎	木村 文晃
本田 順一	浦田健太郎	石山 未紗	村山 良介

☆研究活動スタート支援

松生理恵子 築根 直哉

☆特別研究員奨励費

高市 祐佳

=佐藤奨学生=

〈第1種〉

(歯学部)

第2学年	内本 侑那	小池 香穂	徳永 陸斗
	河野 令華	高嶋 優也	山岸 佳子
第3学年	酒井 皓子	工藤 玲	早苗 優貴
第4学年	横山 裕乙	松井 梨乃	大沼 咲奈
	高田 紋花	新井 智美	矢野真柚子
第5学年	篠原 理恵	中島 拓紀	工藤 和希
	中野 祥	西村 優香	山口 裕史
	西原 佑哉	水村 敦	
第6学年	岡田早慧子	青木 良太	松本 彩香
	新井 聡美	永井佐和子	黒沼 英之
	北野 晃平		

(歯科技工専門学校)

第2学年	多田 龍平
第3学年	鶴見 直人

(歯科衛生専門学校)

第2学年	水野留理子	清水さくら
第3学年	伊藤 千晴	今村 麻衣

〈第2種〉

(歯学部)

第4学年	田邊 和		
第6学年	稲永 翔伍	佐藤 壮将	吉田 貴政
	吉田 浩子		

=歯学部同窓会奨学生=

(歯学部)

第5学年	高杉 玲美	手塚 悠	松永 彩
------	-------	------	------

(歯学研究科)

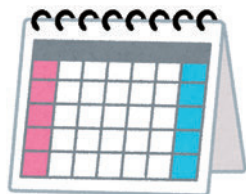
4年次	生田目大介	宮 千尋	山縣加夏子
-----	-------	------	-------

学生生活

特待生と奨学生

=日本大学特待生=

第2学年	一ツ子綾乃 (乙)
第3学年	青木 真由 (甲)
第4学年	小見山 奏 (乙)
第5学年	比嘉 真実 (乙)
第6学年	長崎美緒乃 (乙)



寄付金の受け入れ

(令和2年5月29日現在)

= 研究助成金 =

100万円	公益財団法人ロッテ財団 基礎自然科学分野 (化学) へ (代表理事 佐藤正典殿)	3.13
15万円	株式会社モリムラ 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役 森村豪殿)	4.3
50万円	一般財団法人ホーユー科学財団 薬理学講座へ (代表理事 水野真紀夫殿)	4.10
60万円	サンメディカル株式会社 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 稲垣隆之殿)	4.27
50万円	サンメディカル株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 稲垣隆之殿)	//
50万円	サンメディカル株式会社 歯科理工学講座へ (代表取締役社長 稲垣隆之殿)	//
30万円	サンメディカル株式会社 歯科保存学第Ⅱ講座へ (代表取締役社長 稲垣隆之殿)	//
30万円	サンメディカル株式会社 歯科技工専門学校へ (代表取締役社長 稲垣隆之殿)	//

= Journal of Oral Science 出版助成金 =

60万円	サンメディカル株式会社 研究事務課へ (代表取締役社長 稲垣隆之殿)	4.27
------	---------------------------------------	------

編集後記

今年2月くらいから新型コロナウイルスの影響がではじめ、日常が大きく変わってしまいました。4月には、緊急事態宣言が発令され、外出自粛が要請されるなど、誰もが経験したことのない状況となりました。

学校では、学生生活の大きな節目となる卒業式、入学式や、オリエンテーション、球技大会といった行事も実施することができませんでした。また、当面は登校することができず、授業についても遠隔での実施となりました。新たな日常生活が求められる中、学生、教職員の安全を第一に考え、授業を実施し学生生活を送られるよう取り組んでいきます。

もう、夏本番。暑さの中、熱中症にも、新型コロナウイルスにも注意して、体調管理には十分気をつけながら、この夏を過ごしてください。そして、新たな生活様式を模索しながら、前を向いて新たな学生生活を有意義に過ごしてください。(N.K)

表紙の写真は今村有里さん(第2学年)にご提供頂きました。

お知らせ

歯学部行事予定

- 7月 12日(日) 第1回Web進学相談会
- 8月 22日(土) 第2回進学相談会(予定)
- 23日(日) 第3回進学相談会(予定)
- 9月 19日(土)・23日(水) 定期健康診断
- 26日(土) 大学院歯学研究科入学試験(第1期)
- 10月 4日(日) 日本大学創立記念日